

主 題：あなたの救い主 主イエス・キリスト

聖書箇所：ルカの福音書2章8－20節

命題：神があなたの救い主、主イエス・キリストを与えてくださった

きょうは皆さんと、神が私たちに知らせてくださったすばらしい喜びの知らせについてご一緒に考えてみましょう。本日の聖書箇所はルカ2：8－20ですが、どのような出来事が起こったのかを私たちが思い返して知るために、ルカ2：1－20までを見ることにします。このルカの福音書を記したルカはドクターであり、何が起こったのかを正確にまとめました。2：1から次のように記しています。

「1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。2 これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。3 それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った。」この皇帝アウグストという人物はオクタウィアヌスというローマ帝国の初代皇帝です。またクレニオ・キリニウスがシリアを治めていたと書かれています。これは世界史にも出て来る今から二千年ほど前に実在した人物です。聖書は、いつこの出来事が起こったのかを私たちに明確に教えてくれています。続いて4－7節で、どここの場所で起こった出来事なのかを教えてください。「4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系でもあり血筋でもあったので、5 身重になっているいなづけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。」それはユダヤのベツレヘムというダビデの町です。そのベツレヘムの地でマリヤとヨセフの二人のもとに男の子が生まれた、と記しています。また「それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。」と、誕生した男の子がどうして飼葉おけに寝かされたのかという理由も記しています。イスラエルでは新しい子どもが誕生すると、まず塩を溶かした産湯でからだを洗い、次に四角い布で覆ってから包帯のような布でぐるぐる巻きにラップします。そしてみんなの前に連れて来て置いて、通常はおじいさんやお父さんがその前に来て名前をつけたりしてみんなでその誕生を祝うのです。けれど聖書は私たちに、この新しく誕生した男の子がマリヤとヨセフのもとで飼葉おけに寝かされていたことを教えてください。この生まれた男の子、この方は主イエス・キリストです。この新しく生まれた男の子について、神は私たちにすばらしい喜びの知らせを知らせてくださいました。では、本日のテキストである8－20節を続けてお読みいたします。

ルカの福音書2：8－20節

「8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリスです。12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」13 すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。14 「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」15 御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは互いに話し合った。「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。」16 そして急いで行って、マリヤとヨセフと飼葉おけに寝ておられるみどりごを捜し当てた。17 それを見たとき、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。18 それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚い

た。:19 しかしマリヤは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らせていた。:20 羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。」

もう一度8節をご覧くださいと、「さて、この土地に」とあります。場所はユダヤのベツレヘムです。この町はダビデ王が生まれた町で“ダビデの町”と呼ばれていました。またダビデが王になる前に羊飼いとて羊を飼っていたのも、このベツレヘムの周囲である土地でした。昔からこの土地では羊飼いたちが羊を放牧していました。私も実際にベツレヘムに行ったことがあります。今でもその野原が広がっています。8節には、このベツレヘムで「羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた」と書いています。「羊飼いたち」と複数の羊飼いたちが羊の群れを放牧しながら野宿をして夜番交代交代に羊を見守っていたということがわかります。神は羊飼いたちに神の御使いを遣わせて、神のメッセージを伝えてくださいました。9-12節をご覧ください。「:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。:11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。:12 あなたがたは、布にくるまって銅葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」神は羊飼いに對して、また私たちに対して、すばらしい喜びの知らせを伝えてくださいました。それは、「神が私たちの救い主を与えてくださった」ということです。ここには「この上もない大きな喜びについての知らせである」ということばがあります。訳すなら「さあ、恐れるな。なぜならこの上もなく喜ばしい知らせをあなたがたに告げるのだから」と御使いが語ったのです。そしてこの良い知らせは、ユダヤ人や羊飼だけでなく、私たちのためでもある神からのメッセージだ、と聖書は教えてくれます。10節で御使いは、「今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。」と語りました。文脈をよく見ると、御使いがこの知らせを告げた後で、13節に、天の軍勢が賛美をします。「すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」」このメッセージは14節にあるように、神の「御心にかなう人々」神のメッセージを受け入れ、神から祝福をいただく人々への神からのメッセージです。神の御心にかなう生き方、その人たちすべてに与えられるすばらしい喜びの知らせです。きょう皆さんと一緒に見るメッセージの命題は、「神があなたの救い主、主イエス・キリストを与えてくださった」ということです。

では、8-20節を通して三つのことをご一緒に見ていきます。一つ目は「神が知らせてくださったすばらしい喜びの知らせは何か」二つ目は13-14節「神の知らせを信じ受け入れた神のみこころにかなう人々の祝福」神のメッセージを受け入れた人々は祝福を受けるのです。三つ目は「神の知らせを受け入れた人々の応答、その生き方」です。

でも皆さん、注意していただきたいことがあります。それは、皆さんがきょうお聞きになるこの聖書のことばを、どのように受け止められるかです。この聖書のみことばを単なる知識、教養としてあなたが受け止められるか、または軽く聞き流してしまうのか、それとも真面目に受け止めて自分にどのような関係があるのかをしっかりと考え、信じ受け入れるのか、それによってこの神からの喜びの知らせがあなたのものとなるかどうかが変わるのです。もしあなたがメッセージについて、この神のことばに耳を傾けず、心を開くことがなく、自分とは関係のないものだと考えるならば、残念ながらこの喜びの知らせはあなたのものとはならないでしょう。でももし、あなたがこのことばについてよく考え、そして信じ受け入れ神に従う決心をなさるなら、間違いなく皆さんは、この神からすばらしい喜びの知らせをあなた自身のものであるとして喜ばれることでしょう。では、順にご一緒に見ていくことにしましょう。

Aすばらしい喜びの知らせ 8-12節

新しく誕生した男の子はどのようなお方か？

まず一つ目、それは「すばらしい喜びの知らせ」です。喜びの知らせとは何でしょうか？まず私たちは主の使いが伝えてくれた8-12節の中で、三つのポイントを見ることができます。それは「新しく誕生した男の子がどのようなお方なのか」ということについての三つのポイントです。2:11を見ると、このようにあります。「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」三つ見つかりましたか？一つ目は、この方は「救い主」です。そして二つ目は「主」であり、三つ目は「キリスト」です。主の使いはこの新しく生まれた男の子が、あなたの「救い主」であり、あなたの「主」であり、あなたのために生まれた「キリスト」であることを伝えてくれました。でも皆さん、これは一体どういう意味なのでしょう？そして、どうしてこれが、羊飼いにあって、また私たちにとっても非常に大切な喜びのメッセージなのでしょう？この新しく生まれた男の子主イエス・キリストが、救い主であり、主であり、キリストであることについて順を追って見ていくことにしましょう。

1. 救い主（あなたの罪の救い主）

まず一つ目は、この男の子はあなたの「救い主」である、というメッセージです。この「救う」という「ソーテリア」ということばは、「敵の手から救う」とか「守護する」という意味です。私たちも「救う」ということばを、困難な状況や危険な状態から助け出すとか解放するという意味で使ったりします。火事から人を救うとか、洪水で溺れている人を救い出すとか、子どもが悪い人に連れ去られようとしているのを救い出して助けるなど、日常的に私たちも使います。では、聖書が言う「救い主」とは何からの救いなのでしょう？皆さんはどのようにお考えでしょうか？救い主とは、私たちを何かから救い出してくれるから救い主なのでしょう？神は私たちに救い主が必要だから与えてくださったのです。聖書は、主イエス・キリストは私たちの罪からの救い主であることを教えてくれています。

1) 罪からの救い主 マタイ1:20-21

まず一つ目に「罪からの救い主」です。マタイ1:20-21をご覧ください。「:20 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないうあなたを妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。:21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」」御使いがヨセフに言ったこの「イエス」という名前は、「神は救う」という意味です。そして聖書は、このイエス・キリストこそがあなたの罪からの救い主だ、と言います。なぜならイエス・キリストを自分の罪からの救い主だと信じる者は、神によってその罪が赦されるからです。神があなたのために罪からの救い主を与えてくださったその理由は、あなたに罪からの救い主が必要であったからです。救いの必要がないと思う人は救いを求めようとはしません。ですから、まず私たちに罪があるのかどうかを確認してみましょう。なぜなら神は「あなたが罪人である」と宣言し、その罪からの救い主を与えてくださったのですから。

この「罪」とは、私たちが犯罪を犯したり、だれかに対してしてしまう悪いことだけではありません。「罪」とは私たちひとりひとりの持つ、神に対する罪です。

2) 罪とは神に対する不敬虔と不正

二つ目に「罪とは神に対する不敬虔と不正」です。私たちが普段、罪とか罪人は言うときは、犯罪を犯した人とか、何か事件を犯して裁判で有罪判決を受けた人、というふうには考えませんか？しかし、聖書が言う罪の定義があります。それは、私たちの持つ神に対する不敬虔と不正です。不敬虔とは、「神を敬わない」とか「神を冒瀆する」という意味です。神を神として敬わない、神を神としてあがめない、神を礼拝しようとしないうこと、これが不敬虔です。また不正とは、神の教え、神の命令から外れた的外な生き方をする、神の基準から外れてしまうこと、これが罪です。では、神は私たちにどのように教え、命じられているのでしょうか？皆さんが聞いたことがあると思われる“十戒”というものがあります。出エジプト記20:3-6に次のように書かれています。「:3 あなたには、わたしのほかに、ほ

かの神々があってはならない。:4 あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。:5 それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、:6 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。」神以外のものを神とし、また偶像を造って拜む、これは神に対する不敬虔であり、罪です。なぜならこの世界をお造りになった神がおられるので、その創造主なる唯一まことの神を神としてあがめ礼拝するのは、私たち人間が当然なすべきことです。また私たち自身の心にも神を拝みたい、拝もうとする心があります。人間は神を礼拝して生きる者として造られたからです。ですから私たちはだれに教えられたわけでもなく、自分の欲望に従って生きていきたいと思えば自分の都合に合わせた神を造り出し、拝もうとするのです。今は12月ですがあと2週間したらお正月です。多くの人が神社に初詣に行く、それが私たち日本の社会です。中にはその前にお寺で除夜の鐘を突かせてもらう人がいるかもしれません。また初日の出を拝んでみたり、中には交通安全のお守りや縁結びの神様、安産、受験、商売繁盛など、いろいろな私たちの必要のためにご利益があるようにと偶像を造りお参りし、礼拝しようとするのが現実です。

では、少し考えてみて下さい。もし本当の神様がこれをご覧になったとしたら、神は悲しまれないでしょうか？まことの神はお怒りにならないでしょうか？聖書が何と言っているのかをお聞きください。ローマ1:18-23で、創造主である神に対する罪が書かれています。「:18 というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。:19 それゆえ、神について知られることは、彼らに明らかです。それは神が明らかにされたのです。:20 神の、目に見えない、本性すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。:21 それゆえ、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。:22 彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、:23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。」皆さん、これこそが私たち人間が神に対してしている不敬虔なのです。まさに神の栄光を汚し、神を礼拝しようとせず、自分の人生だと言って自分の欲望と必要のために自分の神を造り、自分で選び拝んでいるのが私たちの現実なのです。ですから神は「私たちすべての人間が罪人である」と言われるのです。また皆さんの中には「私は神を拝みません。無神論者です。偶像も神を拝みません。」とおっしゃる方もおられると思います。ではあなたは結婚式をなさる時や、お葬式を必要とするときにはどうなさるのでしょうか？ある人はその時だけ教会でウェディングドレスを着るかもしれません。あるいは神社に、あるいはほかの宗教に手を合わせたりされないでしょうか？聖書は明確に言います。「この世界を造られた、ただおひとりのその神の永遠の力と、その神がどのようなお方であるかということは、この世界の創造された時からずっと、神が造られた自然やこの世界のすばらしさを見ればわかります。」と。天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせます。人のからだ一つを見ても、そのすばらしいデザインや機能は神の御手により造られた作品です。神を否定する人はそれが偶然できたと言わざるを得ないのです。私たちはその神に対して不敬虔な態度をとり、敵対して自分の人生と言い、自分の神である欲望に従って生きようとしています。

聖書の中に、昔イスラエルの民を、神がエジプトの国からカナン¹の地に連れ登ろうとされた話が出てきます。皆さんもよく知っておられるとおり、モーセに導かれ、神が紅海を真っ二つにされ、その海の中を彼らが渡り、神は彼らに必要な食物や水を与え養われました。また十戒を与え、彼らは、先ほど私たちが見た神の戒めを聞いたのです。しかしイスラエルの民はその神を神としてあがめず、金の子牛を造り、「この金の子牛が、私たちがエジプトから脱出するときに助けた神だ」と言って拝んだのです。

彼らはそのために死を与えられました。私たちはどうでしょうか？まことの神を神としているでしょうか？神に対する不敬虔は罪です。なぜなら神の栄光を汚し、神に敵対することが罪だからです。

また私たちの心の中にある罪は私たちに不正な行いを起こす原因となります。罪の特徴、不正なことば、行いは、私たちの心から出てきます。ローマ 1 : 28 - 32 にこのように書かれています。「:28 また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。:29 彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪たくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、:30 そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、:31 わきまえのない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈愛のない者です。:32 彼らは、そのようなことを行えば、死罪に当たるという神の定めを知っていながら、それを行っているだけでなく、それを行う者に心から同意しているのです。」私たちの心は、罪で汚染されています。だから私たちのことばも行いも考えることさえもすべてをご存じである神は、私たちのその不正をご覧になり、私たちに罪があると明らかにしてくださっています。では、神は私たちの心をご存じなのでしょう？詩篇 44 : 20 - 21 には神が私たちの心をご存じであることが書かれています。「:20 もし、私たちが私たちの神の名を忘れ、ほかの神に私たちの手を差し伸ばしたなら、:21 神はこれを探り出されないのでしょくか。神は心の秘密を知っておられるからです。」すべての人は神の前に罪人です。私たちはこの自分自身が神に対して犯している不敬虔と不正という罪に対して、何か神に申し開きができるのでしょうか？皆さんの中で「いや、私にはそんな罪は全くありません」と言える方はおられるのでしょうか？…だから救い主が必要なのです。それで神があなたに、罪からの救い主を与えてくださいました。だからこそ、すばらしい喜びの知らせなのです。

3) 罪の結果は死とさばきである

ところで皆さん、もし私たちが罪を罪として認めず、悔い改めもしないで放置すればどうなるのでしょうか？あなたの罪の結果はどうなるのでしょうか？病院で私たちドクターが患者さんにその病気の説明をするときには、この病気を置いておいたらどのような結果になっていくかを伝える必要があるのです。「もし胃がんを放って置いたら病気が広がり、あなたのいのちが失われます。危ない痛い状況になります。」と説明をするのです。これと同じように、あなたが罪を放置した場合、大変恐ろしい結果が待っていることを聖書はあなたに教えてくれます。

聖書が教えてくれている三つ目のポイントは、「罪の結果は死とさばきである」ということです。私たちのこの世での人生はいつか必ず死を迎えます。そして聖書は、死んだ後に、罪を悔い改めなかった人については、火と硫黄の池の永遠の苦しみがあることを記しています。ヨハネ黙示録 20 : 10、14、15 を順にお読みします。「:20 そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。」「:14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」いのちの書に名の記されていない者はみな、この火の池に投げ込まれ、昼も夜も永遠に苦しみを受けることが記されています。主イエス・キリストは、この永遠の滅び、永遠のさばきに至る前のハデス（さばきを待つところ）についても、そこが苦しみの場所であることを教えられました。ルカ 16 : 19 - 31 には、ハデスが苦しみの場所であることが書かれています。「:19 ある金持ちがいた。いつも紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。:20 ところが、その門前にラザロという全身おどきの貧しい人が寝ていて、:21 金持ちの食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼のおどきをなめていた。:22 さて、この貧しい人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。:23 その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。:24 彼は叫んで言った。『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてくだ

さい。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』:25 アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きている間、良い物を受け、ラザロは生きている間、悪い物を受けていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しみもだえているのです。:26 そればかりでなく、私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることもできないのです。』:27 彼は言った。『父よ。ではお願いします。ラザロを私の父の家に送ってください。:28 私には兄弟が五人ありますが、彼らまでこんな苦しみのある場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』:29 しかしアブラハムは言った。『彼らには、モーセと預言者がいます。その言うことを聞くべきです。』:30 彼は言った。『いいえ、父アブラハム。もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ってやったら、彼らは悔い改めるに違いありません。』:31 アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』」この金持ちはハデスの中で苦しみ悶えていました。ほんの少しの水でもいいから欲しいと切に願うほどの苦しみが永遠に続くのです。死んだ後で救いをいただく方法はありません。聖書の言うとおりにです。そしてこのハデスの中にいる者は、先ほど見たとおりに、最後の審判（白い御座のさばき）の後に、ハデスそのものが永遠の滅びの場所である火と硫黄の池に投げ込まれ、昼も夜も永遠に苦しみを受けるのです。聖書が語っているのは、「モーセと預言者」、つまり神のことばに耳を傾けず、神の前に罪を悔い改めていない者は必ずさばきを受けるということです。皆さんの中には「ちょっと厳し過ぎることないですか、昼も夜も永遠に。しかも救いの望みはないのですか？」とおっしゃる方おられるかもしれません。でも、神はこの世界の創造主であり、完全に聖いお方です。そして私たちの罪の裁判官でもあります。私たちが罪の結果について文句をつけることはできません。なぜなら神こそが統治者であり、支配者であり、すべてをさばくさばき主だからです。思い出してください。アダムが神の前に罪を犯したときのことを。彼が善悪の知識の木からその実を取って食べたその罪は、アダム自身に死をもたらし、それだけでなく死の結果はすべての人類に及びました。たった一つの罪の結果が、周りに大きな大きな影響及ぼす結果となったのです。では皆さん、私たちが神様に対して犯している罪は、何回ででしょうか？一度きりででしょうか？二度ででしょうか？三度ででしょうか？私たちはこの完全に聖い神であるお方に対して、自分では数えることができないほどの罪を犯してきたのではないのでしょうか？もし、ただ一度でも私たちが神に対して罪を犯したなら、あなたは神に対して罪人です。そしてあなたには「死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」と聖書は警告しています。ですから神が私たちに罪からの救い主を与えてくださいました。これがクリスマスです。

2. 主（人となられた神）

1) この方は神である

二つ目に御使いが知らせてくれた喜びの知らせ、それは、このお方が救い主だけではなく、「主」であるということです。この方は神である、ということです。ここに書いてある「主」ということばは、ギリシャ語では「キュリオス」と言います。キュリオスとは、奴隷の主人や家庭の中の父親、国の中の皇帝のように所有権や支配権を持つ主人を表します。またそれ以外に、聖書では、ヘブル語の「ヤーウエ」「神」ということばを、七十人訳でギリシャ語に訳すときにこの「主」キュリオスということばに翻訳しました。皆さんちょっと考えてください。御使いはこの良い知らせを羊飼いに告げました。羊飼いたちはギリシャ人ではなくユダヤ人です。彼らは何と聞いたのでしょうか？彼らは御使いから、この新しく生まれた男の子は「主」—「神」であると聞いたのです。前後の文脈を見てみるとさらにそのことが明瞭となります。文脈を見ると、「主の使いが現れて」神の使いです。「主の栄光があたりを照らした」神の栄光が明らかに現されたのです。御使いは神の御使いであり、神の栄光が現されたゆえに羊飼いたちは恐れたのです。御使いが語ったことば、それは「新しく誕生した子どもは神である」ということです。つまり主イエス・キリストは100%神である、ということです。

2) この方は人である

また聖書は、主イエス・キリストは人であることも述べています。ルカ2：6-7で私たちが見たとおり、主キリストは女性であるマリヤから生まれました。主イエス・キリストは100%人であるということです。主イエス・キリストが100%神でありながら100%人であることについて、ピリピ2：6-8が私たちにわかりやすく説明してくれています。「：6 キリストは、神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、：7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。：8 人としての性質を持って現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。」と書かれています。ここに三つの姿が出てきます。

一つ目の姿は「神の御姿」です。「キリストは、神の御姿である方なのに」この姿というのは「モルフェー」ということばで、「内側の本質が外側の姿となって明らかとなる」ことです。聖書は、神の本質が現された姿がイエス・キリストなのだ、主イエス・キリストは神であり、神であるお方なのにそのあり方を制限された、ということをお教えてくれています。神でなくなったわけではなく、神です。でも神であるあり方を制限されたのです。たとえば、神が持つてはおられるすべてを知る全知や、どんなことでもできる全能の力を自ら制限されたのです。でも主イエス・キリストは変わらず100%神であり、聖く愛のお方であり、神がどのようなお方であるのかを私たちに示してくれました。それゆえ、イエス・キリストは人となられた神ですが、全く罪がない聖いお方でした。

二つ目に聖書は「人としての性質」と書いていますが、2017年版の聖書では「人としての姿をもって現れ」と書かれています。この「姿」は「スキーマ」と言って、「時間とともに変わる外見や姿」のことを言います。たとえば、私も皆さんも赤ちゃんとして生まれ、子どもから大人へと姿かたちは時間とともに変わっていきますね。でも、あなたや私という人物は、変わることはありません。つまりイエス・キリストは私たちと同じように赤ちゃんとして生まれ、子どもから大人へと成長する人間として生まれられた、100%人間になられた、ということです。

またそれだけでなく三つ目は「仕える者の姿をとり」とあります。これは「デュロス」ということばで、「奴隷、最下層の奴隷」を意味することばです。自分の所有物も自分の権利も持たず、自分のいのちの権利も保証もありません。主人のものなのです。イエス・キリストは人間の立場、社会的身分の中でも最下層の者となられました。聖書は「自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われ」た。と言っています。私たちの罪のために死ぬためです。人となられた神イエス・キリストが私たちのために来られたのは、私たちの罪のためでした。神であるお方が人間のように死ぬことはできません。ですから神が人として来てくださり、私たちの救い主としてこの世に来られたのです。先ほど私たちが賛美した讚美歌121番「まぶねの中に」の歌詞にあったとおり、この主イエス・キリストは、その誕生も人生も十字架もそのすべては、私のまたあなたの罪の代価を払うためであり、神の愛があなたのために現された結果です。『この人を見よ、この人こそ、人となりたる生ける神なれ イエス・キリストは100%神であり、100%人であるお方です。』

3. キリスト（神が備えられた救い主）

三つ目に御使いが告げたすばらしい知らせ、それは「主キリスト」。この方は「キリスト」だ、ということです。この「キリスト」というのは「油注がれた者」という意味です。言い換えるなら、「神があなたのために備えてくださった救い主」という意味です。この「キリスト」ということばを言い換えるなら「メサイヤ」とか「救世主」ということばになります。かつてはイスラエルで王になる者や、祭司として神に選ばれた者にはその頭に油を注ぎました。まさに預言者サムエルも、ベツレヘムの野で羊を飼っていたダビデの頭に、神の選ばれた王であることを示すために油を注いだのです。そのように神が選ばれた救い主、キリストであることが示されるのです。聖書は明確に語ってくれます。このキリストは神の小羊であり、あなたのために備えられたいけにえです。いけにえなのです。預言者であるバプテ

スマのヨハネは、イエス・キリストを見て「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」（ヨハネ 1 : 29）と証言しました。主イエス・キリストはあなたの罪のいけにえになるために人となられた神です。先ほど一緒に見たとおり、私たち人間は、すべて例外なく罪人です。死ぬことと、死後にさばきが定まっています。でも、神が備えられたのは、あなたの救いの計画でした。それは神であるお方が、あなたの罪のために人として来てくださり、あなたの罪の罰を身代わりに受ける罪のいけにえになるためでした。あなたのために人となられた神が、あなたの罪のいけにえになられたとはどういうことですか？とおっしゃる方があるかもしれません。今の日本では、私たちはいけにえをささげることを見たことがないからです。でも、当時のユダヤ人たちイスラエルの民には非常によくわかることでした。特にこのベツレヘムの地方に住む羊飼いは、この罪のためのいけにえは大切な問題でした。なぜなら彼らが飼っていた羊が、まさにその罪のためのいけにえだったのです。当時のイスラエルでは、だれかが罪を犯したならば、聖書の示すとおり、神の命令どおりに罪に対する神の怒りをなだめるためにいけにえをささげました。このベツレヘムで暮らしていた羊飼いたちは、その羊から羊毛を取ったり、食用にしたこともあったでしょうが、ただそれだけのために羊を飼っていたわけではありません。地図で見るとわかりますが、実は、このベツレヘムから北に10キロほど行った所にエルサレムがあります。そしてエルサレムの神殿と比べてこのベツレヘムという土地は、標高にして約30メートルほど高いのです。当時のユダヤ人たちには、神の前に罪を犯したときに傷のない羊をささげることが命じられていました。たとえば、死海のほとりであるエリコやガリラヤから羊を連れて登って来ようとしたら大変です。ずっと坂道で数百メートルほど登るのです。ここから言えば金剛山や葛城山のとっぺんまで羊を連れて登らなければならないとしたら大変ですね。パークレーやいくつかの文献によると、当時、このベツレヘム地方の羊飼いたちはエルサレムの神殿と契約をしています。人々がその急な坂をいけにえとなる羊を連れてエルサレムまで登って行くのではなくて、羊飼いたちがベツレヘムで育てた羊をエルサレムに連れて行き、そこで人々は羊を購入していけにえとしてささげたのです。羊飼いたちは、自分が育てている羊は、みな罪のいけにえとしてささげられる羊なのだとはよくわかっていました。レビ記 17 : 11 には人の罪の代価として神が定められたことが出てきます。それは罪の代価は、いけにえの血が必要ということです。「なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である。」旧約聖書の時代、人々は罪の贖いのためにいけにえをささげました。このいのちの贖いのために、罪の代価を支払うために、神は血を与えられた、と聖書のことばが教えてくれるのです。これは、なぜイエス・キリストが十字架にかなければならなかったのかということをお私たちに教えてくれるのです。このみことばを引用したヘブル 9 : 22 にはこのように書かれています。「それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。」皆さん、私たちの罪が神に対する罪であるならば、私たちが自分で思う勝手な方法で罪を解決することはできません。そうですね。もし私たちがだれかに悪いことをして謝罪しようと思ったら、相手が「こうしたら赦してあげるよ」と言うその相手が赦してくれる方法に従って、自分の犯した罪の謝罪をしようとするではないでしょうか。私たちの罪が神に対するものであるならば、神ご自身が人として来てくださって、私たちの罪の罰を代わりに受けてくださった、この救いの方法以外に救いは残されていません。神がお定めになった解決の方法は、神ご自身が人として来られ、私たちの罪を取り除くためのいけにえとなられ、私たちが自分の罪を悔い改め、神を神として礼拝する、従うことによって私たちは罪が赦される、イエス・キリストを私たちの罪の救い主として信じ受け入れることによって私たちの罪は赦される、それが神の与えてくださった救いです。ヘブル 9 : 26 - 28 にはそのことがもっと明瞭に説明されています。「:26…キリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、:28 キリス

とも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられました…」キリストはあなたのために何をしてくださったのでしょうか？それはあなたのために十字架で血を流し、罪の罰を完全に代わりに受けてくださったということです。あなたの罪の身代わりなのです。私たちが持っているその罪をイエス・キリストは完全に背負って、支払ってくださったのです。私たちの罪を神に対する借金でたとえるならば、その借りたお金を、主イエス・キリストは十字架の上で罪の代価を完全に支払って下さいました。だからイエス・キリストは十字架の上で「完了した」（ヨハネ19：30）支払い終わったという意味の言葉を言われたのです。神であるお方が人として来られ、あなたの罪の罰の身代わりにより十字架で死んで下さいました。つまりこの主イエス・キリストは、あなたのための救い主であり、主であり、キリストです。皆さんが自分の罪のためにこの救い主、主イエス・キリストが来られたことを信じ受け入れるなら、あなたの罪は完全に神の前に赦され、義とされます。

この十字架刑というのは確かに血を流す刑罰ではありますが、非常に屈辱的なまた大変な苦痛を伴う死刑の方法です。手首と足首に釘を打ち込み木に磔にするのです。この十字架刑には普通の犯罪人はかかりませんでした。ローマに対して反乱を起こしたり、強盗や殺人など非常に重い罪を犯した人物がかけられた死刑の方法です。またユダヤ人にとって木にかけられるというのは、神に呪われた者となることです。当時は、ローマの市民権を持っていた人物は十字架刑で処刑されることはありませんでした。事実、使徒パウロはローマの市民権を持っていたため、十字架にはかけられず、ほかの弟子たちは十字架刑につきましたが、パウロは首をはねられて殉教したということが伝えられています。十字架刑とは死刑として人工的に心不全を起こさせる刑罰だとされています。次第に肺に水が溜まる肺水腫の状態になり、胸に水が溜まるのです。手足から出血もありますが、次第に衰弱して死んでいく死刑の方法です。医学的な面で興味深いことは、足の骨を折るとすぐに死ぬという記述があるということです。これは、釘を打たれたその足で痛いけれどもからだを伸ばすようにしなければ、手や腕だけでは十分な呼吸ができない状態になり、すぐに死んでしまうということがわかっています。主イエス・キリストはこの十字架刑を、私のためまた皆さんのために受けて下さいました。イエス・キリストが十字架の上で祈られた祈りは、私たち罪人のための祈りでした。もっともその十字架につけようとしていた人々のために祈られたのですが、その祈りは、ルカ23：34「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」イエス・キリストはあなたのため、また私の罪のために十字架についてくださり、それだけでなく私たち人間の罪のとりなしを神にしてくださいました。祈りをささげられたのです。イエス・キリストは完全に十字架の上で死を味わわれました。イエス・キリストが十字架で死なれた時に、そばにいたローマの兵士が槍でイエス・キリストの脇腹を刺すのです。そして槍を抜いたときに「すぐに血と水が出た」と書かれています。下から突き上げるのです。だから槍は脇腹から胸腔の方に抜けるわけですが、医療関係者の方ならご存じだと思いますが、心不全でお亡くなりになった人の場合、胸水が溜まります。槍で突いて、大血管の心臓また肝臓（右からなら肝臓）や脾臓（左からなら脾臓）などの内臓のどちらかを損傷したなら、水（胸水）と血液が出てくるのです。聖書の記述のとおりです。弟子の一人であったトマスが、イエス様の復活を信じないで、「脇腹の傷から手を差し入れなければ信じない」と言ったほどですから、私たちが胸の水のために入れる20センチのチューブよりもかなり大きな傷ができていたことでしょう。このことから言えるのは、イエス・キリストは完全に人として死なれたということです。主イエス・キリストはあなたのために来られ、十字架で死なれ、またそれだけでなく三日目にその死から復活されました。復活したイエス・キリストとお会いした弟子たちは、迫害があってもその人生のすべてをかけてイエス・キリストが死から復活された証人となりました。皆さん考えられるでしょうか？実に十二人の弟子たちのうちイエス・キリストを裏切って自殺をしたユダを除いた十一人のすべてが、自分の家族も自分の仕事も置いて、「イエス・キリストこそが神であり救い主であり、私はその十字架の死から復活したイエス・キリストにお会いしたのだ。私はその復

活の証人だ。」と全世界に伝え、その一生のすべてを終えるのです。歴史が証明しています。クリスチャンに対する迫害があっても彼らはその主張を曲げませんでした。皆さんの目の前に、今聖書があるのがその証拠です。神のことばが私たちのもとまで届きました。主イエス・キリストは私たちのために来られ、死なれ、そして復活されました。それは私たちの罪の罰を身代わりとして、罪の代価を完全に支払い、神の怒りをなだめるためでした。まさに私たちのためにいけにえとなられた方です。人となられた神は、私たちのいけにえとなってくださいました。では、あなたはこの神の愛に対してどのようにお答えになるのでしょうか？皆さんはこの神に対して持っている不敬虔や不正という的外れな罪を悔い改めて、この救い主を受け入れようとなさらないのでしょうか？

B. 御心にかなう人々の祝福 13-14節

さて残り少しの時間で、神の御心にかなう人々の祝福と、神の知らせ、人々の応答を見ていきます。御使いは羊飼いたちに、神のことばのしるしとして次のことを語りました。それは「布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけ」る、ということでした。この飼葉おけとは、ろばや牛などの餌を入れる入れ物です。キリストは飼葉おけをベッドにするほどに遯られました。また「みどりご」と書かれているのは新生児のことです。この「みどり」という表現は日本のかなり昔の法律に“大砲律令”というものがあって、そこに三歳未満の子どものことを「みどり」と表現する」という表現があるからです。さて、13-14節で、御心にかなう人々の祝福がどのようなものであるかが書かれています。御使いと、天の軍勢が神をほめたたえて次のように賛美します。「いと高き所に、栄光が、神にあるように。」この「神」ということばは単数形で書かれており、唯一の創造主なる神に対する賛美です。たくさんの神があるわけではありません。唯一の神です。またこの「栄光」とは、辞書では「栄光」とか「名誉」と訳されることばで、これも単数形です。「神だけがお持ちになる神の栄光が、唯一の神にあるように」と御使いと天の軍勢は神をほめたたえました。また次に、「地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」と続きます。この「御心にかなう」とは、「神に喜ばれる」とか「神のお心にかなう」という意味です。つまり神のメッセージを受け入れ信じた者は、神に従い、神に喜ばれ、神の御心にかなう民となります。またここで「平和」ということばが出てきます。このことばも、「イーレーネ」というギリシャ語で、単数形です。このみことばが言うのは、決して、この世界の平和がありますように、とか戦争がなくなりますように、というのではなく、神のみことばを信じ受け入れる人にある神との平和、平安、神との和解です。救いを受け入れて神と和解した者は神にあって平安を持ちます。ローマ5：1にこのようにあります。「ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。」このことばのとおり、私たちは何かの行いをすることによって救われるものではありません。「信仰によって義と認められた」と書いています。信仰なので、お金をささげても、ほかの人に善行をしても、私たちが神に対して犯した罪は赦されません。ただ私たちの主イエス・キリスト信じる信仰によってのみ義と認められ、神と和解し、神との平和を持つことができます。ローマ5：8-11が、神が私たちと和解してくださることについて書いてくれています。「：8 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。：9 ですから、今すでにキリスト血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。：10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。：11 そればかりでなく、私たちのために今や和解を成り立たせてくださった私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を大いに喜んでいるのです。」神の御心にかなう人々の祝福、それは罪の救いであり、神との和解です。神との平和です。神の前に私たちが持っていた敵意や罪がすべて完全に赦され、神を信じ従う者とされます。私たちは神と敵対関係にあるのではない。私たちは神との平和

を持ち、和解し、平安を持って生きる者へと変えられるのです。これが、御心にかなう人々の祝福です。

C. 知らせを受け入れた人々の応答

さて最後に、「知らせを受け入れた人々の応答」について見ます。御使いの知らせを聞いた羊飼いの応答、またその生き方は変わりました。五つありますが順に見ます。

御使いの知らせを聞いた羊飼いの応答

1. 神からのメッセージと認め、受け入れた

まず1つ目は、羊飼いは神からのメッセージを神のメッセージと受け入れました。羊飼いたちのことばによると、「主が知らせてくださったことを見に行こう。」と信じたのです。彼らは御使いを通して語られたことばが神のことばであると信じました。私たちどうでしょう？今私たちは、神様のみことばを聖書から聞いて心に留めているのでしょうか？私たちは羊飼いが神のことばを受け入れ信じたように、この神のことばを自分のこととして受け入れているのでしょうか？この主イエス・キリストが私の救い主であり、主であり、キリストである、そのことを羊飼いたちは確かめるために、この神のことばを信じ、受け入れ、従ったのです。

2. 急いで行って

二つ目に、羊飼いたちは「急いで行って」とあります。これは「時間的に急ぐ」という意味もありますが、辞書によると「熱望して」とか「熱心に」という意味です。熱望してとか熱心にそのことを強く願うのです。羊飼いたちにとっての優先順位が変わりました。この神からの喜びの知らせは、彼らにとって最優先事項になりました。ですから彼らは自分の放牧していた羊を置いて、自分の財産や地位に心を置かず、神のみことばが本当かどうかを確かめたいと願ったのです。私たちはどうでしょうか？私たちは、今まで自分の信じてきたものや考えや価値観に、まだこだわりを持つのでしょうか？それとも羊飼いがしたように、神からの喜びの知らせを聞いたときに、それを最高の第一のものとして受け入れようとするのでしょうか？また受け入れているのでしょうか？羊飼いはこの神のメッセージを聞いたときに、それを見たいと熱望して従いました。彼は神の命令、みことばに従順に従ったのです。私たちは神の命令に従順に従う者でしょうか？

3. 捜し当てた

三つ目に、「羊飼いたちは捜し当てた」とあります。確かに彼らは御使いから「布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。」とのことばをいただきました。そしてマリヤとヨセフと飼葉おけに寝ておられるみどりごを捜し当てたのです。御使いの知らせのとおりであることを、羊飼いは見ました。皆さんちょっと考えてください。この羊飼いの態度はすごく忠実だと思いませんか？なぜなら彼らが知らせを受けた時は、ベツレヘムは夜中です。みんな寝ているはずですが、でも彼らは、その中の一軒を訪ねただけですぐに見つけられたのでしょうか？みことばは「捜し当てた」といいます。彼らは捜したのです。神のみことばに忠実に従って。きっと翌朝、町のあちこちでこのような話が聞かれたはずですが。

「きのう夜中に羊飼いたちが来て、生まれた赤ん坊はいますか？飼葉おけで寝ていませんか？と訪ねてきたぞ。」羊飼いたちは御使いを通して告げられた神のことばに忠実に従いました。私たちは神のことばを聞いたときに疑ったりつぶやいたりすることなく忠実に従おうとしているのでしょうか？

4. 幼子について告げられたことを知らせた

四つ目に、彼らは「幼子について告げられたことを知らせた」とあります。彼らは神のことばを伝える者とされました。神のみことばを信じ受け入れ従う者は、自分の周りの人たちにも自分が受けた神のことば、神のメッセージを伝えようとします。このメッセージは、マリヤとヨセフにとってすごく励みがあったと思いませんか？住民登録のためにヨセフもマリヤも自分の故郷の町に帰って来ましたが、ベツレヘムに親族がいるはずなのに受け入れてもらえなかったのです。彼らにはわからないのです。イエス・キ

リストが聖霊によって身ごもり乙女マリヤから生まれたということが。村八分です。宿屋にも泊まる場所がなかったのです。だからマリヤとヨセフは不衛生な家畜がいるようなところで、新しく生まれた男の子であるイエス・キリストを飼葉おけに寝かせざるを得なかったのです。すごく意気消沈するような場面であって、この羊飼いたちは神からのメッセンジャーとなります。なぜなら、この新しく生まれた男の子が救い主、主キリストであることを御使いが語り、神からのメッセージが届けられたことを、羊飼いたちがマリヤとヨセフに語ったからです。神はそのように愛を示し配慮されるお方でもあります。人々は驚きましたが「…マリヤは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。」とあります。マリヤから直接聞いたルカは、この御使いが知らせた神の喜びの知らせを福音書にまとめたと考えられます。

5. 神をあがめ、賛美しながら帰っていった

最後に、羊飼いたちは神を礼拝する者となりました。「神をあがめ、賛美しながら帰って行った。」とあります。羊飼いたちは神のくださったすばらしい喜びの知らせを信じ受け入れました。この新しく生まれた男の子が自分の救い主、主キリストであると信じ、神をあがめ、賛美し、礼拝する者となったのです。お気づきでしょうか？神は私たち人間を心から変えてくださり、神とともに生きる新しい人生を与えてくださるお方です。

神は確かにおられます。神が実際におられる証拠として、少なくとも五つのことを挙げるができます。それによって、神が栄光とほまれをお持ちの神であることを明らかにすることができます。まず一つ目は皆さんとみことばで見たとおり、「神が造られた世界であり、自然のすばらしさ」です。神の作品を見るときに私たちはその造り手である神様に思いを馳せるのです。二つ目は、皆さんの「心にある良い心、良心」です。ローマ1章にあるとおり、神は私たちの心に良心を与えてくださいました。だから罪を犯したときにだれが教えたわけでもないのに心が痛むのです。子どもが罪を犯そうとするときに、悪いことだと知っているときに、親の顔見てにこっと笑うのです。私たちの心には神の律法が書かれていて、私たちはそれゆえに神のことを知らなかったと言うことはできないのです。神がおられることは私たちの良心からも明らかです。三つ目に神がおられる証拠は、「神のことば」です。私たちは聖書を通して神がおられることを知ります。神は目に見える方ではありません。もし見えたなら、聖い神を見た私たちは、たちどころに死んだかのような状態になって恐れまどうでしょう。ちょうど羊飼いたちが恐れたように、イザヤが恐れたように。神は目には見えませんが、私たちは神のことばを聖書を通して聞くことができますし読むことができます。それを通して私たちは神が本当におられる唯一まことの神であることを知ります。四つ目は、きょう一緒にご覧いただいた「主イエス・キリスト」です。皆さん、主イエス・キリストこそ人となられた神です。イエス・キリストは私たちのために十字架で死に、復活されることによってまことの神であることを明らかにされました。イエス・キリストは歴史上実在するお方であり、その目撃証言、そして神が示してくださった聖書が私たちに、イエス・キリストこそが神であることを教えてくれます。イエス・キリストがおられるならば、神は確かにおられます。最後五つ目に神がおられる証拠は、「クリスチャンー私たち」です。主イエス・キリストにお会いして信じた人々は変えられました。ペテロやアンデレ、ヤコブやヨハネは魚をとる漁師でしたが、彼らはイエス・キリストにあって、救いの知らせ、福音を宣べ伝える人間をとる漁師にされました。変わったのです、新しい人生に。逆に、取税人であったマタイはどうかというと、彼は税金を取り立て帳簿をつける人物でした。彼もイエス・キリストにお会いして変えられました。彼は帳簿ではなく、マタイの福音書を記した著者です。神の福音書を記す者に変えられたのです。その人生を通して。迫害していた者パウロはどうでしょう。彼はクリスチャンを捉え、殺されるときには賛成の票を投じました。ステパノが殺されるときには石を投げる人の着物の番をしていた人物です。彼はイエス・キリストにお会いして全く変えられました。彼は伝道者となりました。そしてその殉教の瞬間まで手紙を書き、人々を励まし、

福音を伝え、今でも私たちにもそのみことばを知らせてくれています。皆さん、この羊飼いたちも神をあがめる、神を礼拝する者と変えられました。神をほめたたえ喜び感謝して賛美する神を礼拝する者です。神は私たちをも変えてくださいます。どうぞ興味がある方は、ライブで礼拝をされている方もぜひ浜寺聖書教会にお越しください。そしてどうか、神が私たちクリスチャンになさるすばらしいみわざを見てください。悲しみと怒りを持っていた方が、救いの喜びと感謝を持つことができ、神を信じ従いたいと願うことができる。不安や恐れを持ちながら一緒に祈っていた人たちが、喜びと平安を持って神とともに生きることができる。私たちの願いのとおりにしても、神が必要満たしてくださり、私たちが弱くて日々からだの衰えを感じるようなことがあっても、神が最善を成してくださるという確信と信頼を持って私たちは生きることができます。受験をすることでも、仕事をするということでも、家族の将来においても、老後についても、確かに私たちは備える必要があります。でも、神を信じる者は神が最善を成してくださるということを信頼して委ねることができます。なぜなら主イエス・キリストさえも与えてくださり、私たちに一番必要な罪からの救いを与えてくださった神は、私たちの必要を確かに満たしてくださるからです。私たちが神の御心に従って導き、助けてくださるから、神の愛に信頼できるから、私たちは願うのです。どうかこの神に、私たちがわからなくても、栄光とほまれが永久にあるようにと。

さて最後に皆さんに質問したいことがあります。神はあなたを愛して救いを備えてくださいました。あなたの救い主、主イエス・キリストはすでにこの世に来られました。それがクリスマスです。このクリスマスに、あなたは主イエス・キリストをあなたの罪からの救い主、主キリストとして受け入れ、お信じになりますか？あなたを愛してこれほどまでに人として生きてくださり、あなたのためにいけにえにまでなってくださったこの神の愛を、あなたは受け入れ、従う決心をなさいませんか？最後にヨハネ3：16－17をお読みして終わります。「:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」きょう一緒にこの神様のことばをお聞きくださった方々、どうか神様の前に罪を放置するのではなく罪を悔い改めて、イエス・キリストこそ私の罪の身代わりに死なれたいけにえであり神であると、その救いを喜んで受け取り、神に従う決心をなさいませんか。イエス・キリストはあなたの救い主であり、主キリストです。